

Sumitomo Foundation News Vol.2

財団設立の経緯

別子銅山開坑300年記念事業

財団の設立は、別子開坑300年を記念して社会に対する報恩感謝の念をあらわすために行った記念事業の一環としてなされたものです。

「自利利他公私一如」

「住友の事業は住友自身を利するだけではなく、国家を利し社会を利するものでなければならない」という先人の教えですが、財団設立はこの理念にもとづくとしてされています。財団の活動は、人類社会の直面する諸問題の解決に多面的に取り組み、国際的な視野をもって、各分野における有意義な研究及び事業に対する助成を行うことにより、社会に貢献してゆくことを目的としています。

* 設立 1991年9月25日 * 行政庁 内閣府 * 基金 225億円

主な活動内容（2018年8月～12月） *（詳細紹介）

- * 1. 8～9月、日本関連研究助成の応募奨励等を目的に海外出張
- * 2. 9月、選考委員会開催（基礎科学研究助成選考委員会、環境研究助成選考委員会）
- 3. 9月～10月末、アジア諸国における日本関連研究助成公募
- 4. 10月、第40回理事会開催
- * 5. 10月、米国（シカゴ、シアトル、ポートランド、サンフランシスコ他）出張
～海外文化財助成先訪問～
- 6. 10月～11月末、文化財維持・修復事業助成（国内及び海外）公募

助成プログラム紹介

文化財維持・修復事業助成について

～『こころの豊かさ』を求めて～

【助成の背景】

文化財は『こころの豊かさ』を育む源であり、新たな文化を創造する礎です。文化財を守り次の世代に伝えることは、今を生きる私たちの責務です。しかし、文化財の多くが修復を必要としながら、それに要する費用を十分賄うことが難しい状況にあります。

このプログラムは、文化財の維持・修復に必要な資金を助成することで、文化財を「守り、活かし、伝える」ことを目的としています。

【助成の概要】

文化財は大きく建造物とそれ以外の美術工芸品（絵画・彫刻・古文書等）に分かれますが、この助成は美術工芸品の維持・修復事業に助成を行うものです。

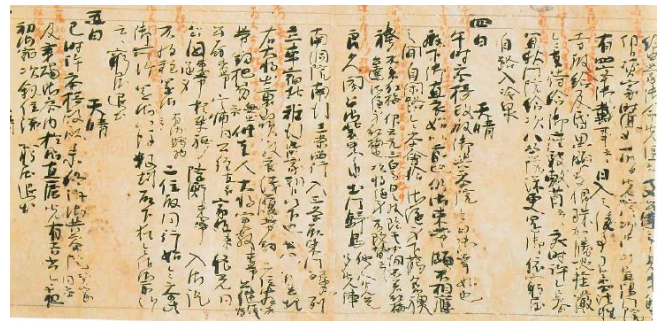
募集は公募により毎年10月から11月に行い、選考委員会での選考を経て、翌年3月の理事会で助成対象先を決定します。助成金総額は7,000万円（2018年度）です。

選考のポイントは、①文化財としての重要度、②修復の緊急度、③修復計画の妥当性、④助成の重要度、です。

【過去の採択事例】



国宝 初音蒔絵調度 書棚（棚囲い・七宝繫）
（公財）徳川黎明会 徳川美術館（愛知）



国宝 明月記
（公財）冷泉家時雨亭文庫（京都）



修復前



修復後

後藤貴明公像 貴明寺（佐賀）

～「文化庁創立50周年記念表彰」を受賞！！～

2018年9月30日、文化庁より「永年に亘る文化財の維持・修復助成に尽力し、文化財保護に多大な貢献をおこなった」として、住友財団は「文化庁創立50周年記念表彰」を受賞しました。



海外出張

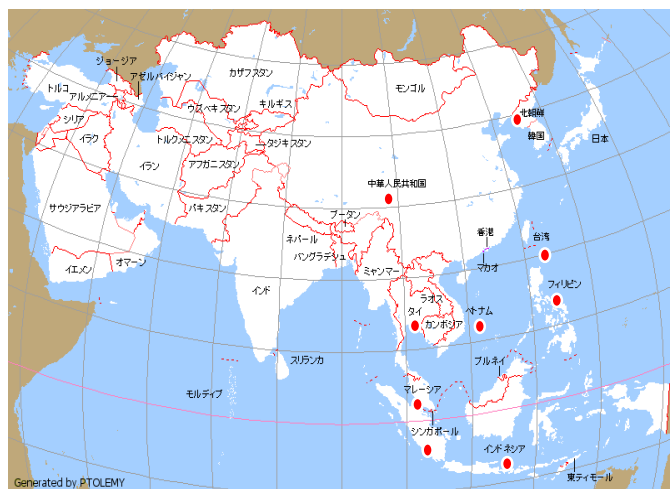
① 「アジア諸国における日本関連研究助成」関連出張（2018年6月～9月末）

～ アジア諸国との相互理解・国際協調の強化・促進 ～

6月（中国・ベトナム） 7月（マレーシア・シンガポール・インドネシア）
8月（フィリピン） 9月（タイ・韓国・台湾） を訪問

目的

- ・研究助成プログラムの応募奨励のためにアジア諸国の主要大学及び関係機関を訪問。
- ・過去の助成対象者と面談し研究成果や進捗状況について確認。
- ・プログラムの今後の改善に資するための情報交換。



● 印が出張先の国・地域



【8月～9月の主な訪問先】

フィリピン



・フィリピン大学 ・アテネオ・デ・マニラ大学
・デ・ラサール大学 ・サン・カルロス大学



タイ

・マヒドン大学 ・チュラロンコーン大学
・アジア工科大学 ・パーヤップ大学



韓国

・ソウル大学 ・高麗大学
・延世大学 ・韓国外国語大学



台湾

・台湾大学 ・中央研究院
・政治大学 ・台北大学

タイ・マヒドン大学にて説明会開催

② 「海外文化財維持・修復事業助成」関連米国出張（2018年10月15日～22日）

海外文化財の修復プログラムでは、過去財団が助成し修復が完了した美術品の現地（現物）確認、海外の美術館や修復所等との情報交換、さらには住友財団の活動の紹介並びに助成プログラムのアウトリーチ（普及・広報）活動のために毎年欧米各国を訪問しています。

本年は米国西海岸の主要な美術館・修復所を中心に訪れ、過去財団の助成により修復したサンフランシスコ・アジア美術館所蔵の「鶴図屏風」他3館所蔵の修復文化財の状況確認をすると共に、現地美術館の館長、学芸員、修復担当者等から所蔵品の内容や現況、修復ニーズの有無等についての説明を受けました。さらに案内により美術館内の展示施設や収蔵庫、修復現場を視察してまいりました。

今回の訪問先は、以下の7カ所（訪問順）です。



シカゴ美術館正面玄関

- ① シカゴ美術館
(アメリカの三大美術館の一つ)
- ② シアトル美術館
(アジア美術コレクションで全米5指) (後述)
- ③ ポートランド美術館
(米国西海岸ではもっとも古い美術館)
- ④ 装厳洞スタジオ (数少ない民間の日系修復所)
- ⑤ バークレー美術館
(カリフォルニア大学バークレー校付属の美術館)
- ⑥ リージョン・オブ・オナー美術館
(西洋の美術品中心に12万点余所蔵)
- ⑦ サンフランシスコ・アジア美術館
(アジア美術に特化した欧米で最大級の美術館の一つ)



サンフランシスコ・アジア美術館日本ギャラリーに展示中
2013～16年度助成狩野氏信筆「鶴図屏風」

現在、シアトル美術館では日本美術を中心とした東洋美術の修復所の建設（2019年11月完成予定）が進んでいます。米国では、ボストン、フリーア、メトロポリタン等、自前の修復設備、人材を備えた美術館は少なくありませんが、基本的には修復対象は自館の収蔵品に限定しています。今回のシアトルの計画は他の美術館の所蔵品の修復を行うと共に、外部を含め幅広く修復技術者の人材育成をも図ってゆくという画期的な構想となっています。

選考委員会開催

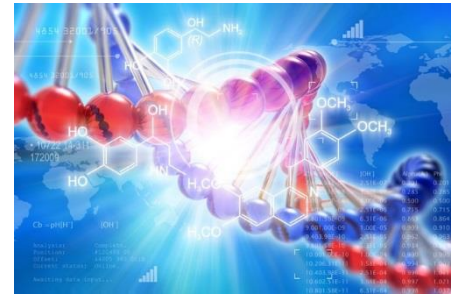
① 基礎科学研究助成選考委員会

～ 2018年度基礎科学研究助成 助成先決定 ～

今年度1,286件の応募先の中から、10月の理事会にて、101件、1億5,000万円の助成が決定しました。
応募は4月から6月に公募により募集し、7月と9月、2回の選考委員会により採択候補先が選定されました。

主な助成先の研究テーマは以下の通りです。

- ・「特異性の視点による力学系と幾何構造の統合的研究」(立命館大学 准教授)
- ・「原子分解能電解電子顕微鏡の開発」(ルートヴィヒ・マキシミリアン大学 DFGプロジェクト)
- ・「ボトムアップ分子集積技術による新規金属ナノクラスター型人工光合成モデルの提案」(北海道大学 助教)
- ・「鯨類の新しい人工授精方法の確立を目指した、イルカの繁殖生理学的特徴の解明」(大分大学 助教)
- ・「熱輻射制御による円偏光光源の創出」(東京大学 講師)



② 環境研究助成選考委員会

～ 2018年度環境研究助成 助成先決定 ～

今年度477件の応募先の中から、10月の理事会にて、課題研究3件、一般研究36件の合計39件、1億円の助成が決定しました。
応募は4月から6月に公募により募集し、7月と9月、2回の選考委員会により採択候補先が選定されました。
主な助成先の研究テーマは以下の通りです。

【課題研究】

- ・「ドローンで収集する熱赤外画像を用いた都市ヒートアイランド現象の超高精細な空間分析」(東京大学 助教)

【一般研究】

- ・「温度操作により酸生成速度を精密に制御する安定メタン発酵プロセスの開発」(東京工業大学 助教)
- ・「生ごみ分別導入による一般ごみ減量効果の回帰不連続デザイン分析と自然実験評価」(九州大学 大学院 講師)
- ・「人工知能ニューラルネットワークを駆使した放射性セシウムの除染作業の効率化」(首都大学東京 准教授)



【選考風景】

展覧会プロジェクト

住友財団修復助成30年記念『文化財よ、永遠に』

住友財団は過去に修復助成した文化財の中から、選りすぐりの作品を展示する展覧会を東京(東京国立博物館、泉屋博古館分館)、京都(泉屋博古館本館)、福岡(九州国立博物館)の4館において2019年秋の同時期に開催することを計画しています。

【展覧会開催の予告チラシ】

